

長崎県感染症発生動向調査速報

平成24年第19週 平成24年5月7日（月）～平成24年5月13日（日）

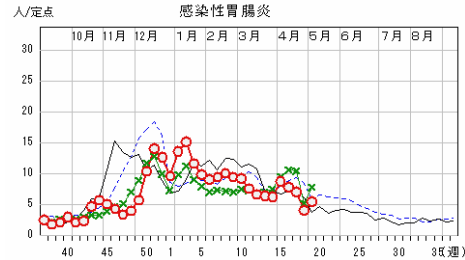
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第19週の報告数は239人で、前週より60人多く、定点当たりの人数は5.43であった。

年齢別では、1歳（49人）、3歳（26人）、10～14歳（26人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、西彼保健所（12.50）、長崎市保健所（7.90）、佐世保市保健所（6.67）が多かった。

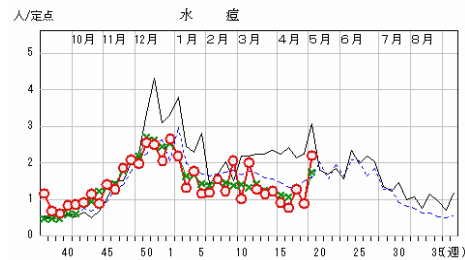


（2） 水痘

第19週の報告数は97人で、前週より58人多く、定点当たりの人数は2.2であった。

年齢別では、1歳（27人）、2歳（25人）、3歳（12人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県北保健所（4.00）、県央保健所（2.83）、五島保健所（2.75）が多かった。

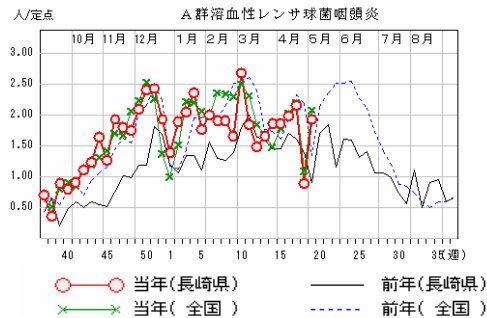


（3） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第19週の報告数は85人で、前週より46人多く、定点当たりの人数は1.93であった。

年齢別では、4歳（14人）、7歳（12人）、6歳（10人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、上五島保健所（6.00）、西彼保健所（4.00）、県央保健所（2.67）が多かった。



☆トピックス・季節情報

【感染性胃腸炎】

長崎県における第19週の報告数は239人で、前週より60人増加して定点当たりの人数は、5.43となり全国定点当たり人数7.82を下回っています。長崎地区からの報告が全体の半数以上を占めており、壱岐・上五島地区を除く地域で未だ散発的に報告が出ています。今後の動向に注視していく必要があります。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【水痘】

長崎県における第19週の報告数は97人で、前週より58人増加し、定点当たりの報告数は2.20でした。対馬・上五島地区以外の地域で報告があり、県北地区（4.00）では国が警報・注意報レベルの基準値と定めている注意報レベル基準値の「4」を超えています。先週に比べて報告数が急増しており、今後の動向に注視していく必要があります。

水痘は水疱瘡（みずぼうそう）とも呼ばれ、原因となる水痘帯状疱疹ウイルスは伝播力が強く、ウイルスを含む飛沫あるいは飛沫核を経気道的に吸入することによる飛沫感染あるいは水泡の内溶液と触れることによる接触感染により感染が成立します。手洗いの励行、体調管理に心がけ感染防止に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第19週の報告数は85人で、前週より46人増加し、定点当たりの報告数は1.93でした。県下全域から散発的に報告があつていて、報告数の変動が大きく、19週では、上五島地区が最も報告数が多く、次いで西彼地区の順となっており、注意が必要です。

本感染症の好発年齢は5～15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1～4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1～2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを行って、感染防止に努めましょう。

